和歌山県立
日高高等学校
SGH通信
第１６号
２０１８年１２月１４日

カナダ研修 その１

SGH 海外研修　移民難民

2018 年 11 月 4 日 ～ 9 日

今年度は、男子２名・女子６名の計８名が参加しました。そのうち５名が、総合的な学習の時間で「移民学習」に取り組んでおり、彼らを中心に事前学習や実地研修等に励みました。

現地では和歌山県人会訪問等を通じて、実際にカナダへ移民した方々の体験談を聞くことができ、当時の暮らしの壮絶さ等、文献等では知り得ないことが学べました。

学校訪問では、和歌山とカナダの繋がりを共有するため、和歌山からカナダへの移民に関する歴史・背景等を発表し、和歌山についても知ってもらえるよい機会となりました。

研修全体を通して、コミュニケーション能力・英語力等に力不足を感じつつも、これからの移民学習及び英語学習への意識がより前向きになった研修でした。

主な研修内容

11/4　出国

11/4　市内研修（移民の都市）

11/5　移民学修

・史跡訪問（移民の歴史）

・県人会訪問（移民の現在）

11/6　自主研修（インタビュー調査）

11/7　ﾘｯﾁﾓﾝﾄﾞｾｶﾝﾀﾞﾘｰｽｸｰﾙ

11/8　出国（11/9　帰国）

報告①移民都市バンクーバー

初日にも関わらず、たくさんのことが学べた一日でした。

まず、貧困について。道端にホームレスの方がいるのをよく見かけました。移民の受入が貧困層の増加に繋がっているのかは分かりませんが、普段見慣れない光景に驚きました。インターネットの情報では「治安が良く安全な街」だと書かれていましたが、実際に足を運んだことで、そうでない部分も見ることができました。経済や生活の質の差が感じられて、少し悲しい気持ちになりつつ、移民問題の課題が分かってきたような気がします。

二つ目は、文化について。カナダは様々な国から人々を受け入れている、本当にその通りでした。アジア系の料理、日本食など、フードコートでは各国の料理が食べられるようになっていました。通りを歩いていても、すれ違うのはアジア系の人が多く、人種の多様性を受け入れているということが大変身近に感じられました。

「多人種・多文化・移民の受入」というプラス面と並行して起こっている「貧困問題」。行かなければ分からなかった問題に直面でき、勉強になりました。毎日のレポートは少し大変でしたが、頑張って本当に良かったです。行って終わりではなく、発見した課題について調べ、まずはプレゼンテーション作りに生かしていきたいです。　　２年３組　塩崎優衣